

令和6年度（2024年度）D級公認審判員の目標



D級審判員は、公式試合（都道府県大会レベル）への参加資格が与えられる。公式試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営こと、および試合を運営するための基本となる技術を理解し、実践することが求められる。

また、競技規則の理解においては、競技規則試験において6割以上の正答率（C級審判員認定に必要）が求められる。

以下にD級審判員が公認審判員として理解し、実践すべき事項について記載する。

< 試合前 >

- 1) 遅くとも、試合開始時刻の1時間前までに会場に到着できるように移動する。
- 2) 大会本部に挨拶をし、控室にて更衣をするなど準備をする。
- 3) トスには指定された時間に両レフェリー、TOが立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 4) ユニホームの確認をする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服の色についても助言する。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点、罰則、時間の管理について）。

< 試合開始時 >

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

< 試合中 >

○ 得点の管理，時間の管理

- 10) 得点の管理は、掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シユート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。

また、時間の管理は試合開始時、タイムアウト時、再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 1 1) CR と GR の基本的な立ち位置や動きを意識する。
CR は判定の後にポイントに素早く移動する。
GR への移動時、バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 1 2) 7m スローの際、コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立ち、素早く移動し、シュートの軌道と GK の動きが正しく観察出来る位置をとる。

○ 判定の手順, ジェスチャー

- 1 3) 判定の手順を守る。
 - ① 笛
 - ② 方向指示 [再開方法]
 - ③ (必要に応じ)ジェスチャー競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

○ 立ち居振る舞い

- 1 4) 2 人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで、プレーを観察することがないように。

○ 役割分担

- 1 5) ゴールエリアライン際の判定は、ゴールレフェリーが判定する。
- 1 6) ピボットプレイヤーの観察は、コートレフェリー、ゴールレフェリーで連携する。

○ 競技規則の正しい運用

- 1 7) 警告、退場を判定する際は、その理由をボディランゲージで大きく示す。
- 1 8) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り 2 人で協議する。

< 試合終了後 >

- 1 9) 試合終了の挨拶 (両チーム役員・オフィシャル) をして、公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。
- 2 0) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。
審判手帳に記載する。
審判長に捺印をお願いする。



< D 級公認審判員チェックリスト >

試合前
確認チ
ェック
☑

特に課
題とす
る項目
に○

終了後
できた
項目☑

◆試合前	試合前 確認チ ェック ☑	特に課 題とす る項目 に○	終了後 できた 項目☑
◆試合前			
1)遅くとも、試合開始時刻の1時間前までに会場に到着			
2)会場に着いたら大会本部に挨拶し、控室にて準備(更衣、ストレッチなど)			
3)指定された時間に、両レフェリー、TO が立ち合いのもとトスを実施			
3)メンバー表、登録証、(試合開始前の)公式記録用紙の確認			
4)ユニホームの確認(濃淡・デザインがはっきりしたもの:チーム同士、レフェリーウェアとチーム)			
4)チーム役員のウェアの確認(相手チームのコートプレーヤーと重複していないか)			
5)ウォーミングアップは、選手と共にペアで行う			
6)ゴールやゴールネット、ボールの点検(事前に)			
7)オフィシャルとの連携(業務の確認、得点、罰則、時間の管理について)			
◆試合開始前			
8)メンバーチェックを登録証とともにを行う			
9)選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶			
◆試合中			
得点の管理、時間の管理			
10)得点の管理は出来ているか(得点のたびに確認しているか)			
10)目視による公示時計の動作確認(どちらかが、試合開始時、タイムアウト時、再開時に)			
走法と位置取り			
11)基本的な立ち位置や動きを意識しているか			
11)コートレフェリー時:判定の後に素早くポイントに移動しているか			
11)ゴールレフェリーへの移動時:バックステップを用いることなく移動しているか			
12)7m スローの際のコートレフェリー:スローの利き腕側・GK を観察できる位置にいるか			
判定の手順、ゼスチャー			
13)①笛 ②方向指示 ③(必要に応じ)ゼスチャー の判定の手順を守っているか			
13)正しいゼスチャーを用いているか			
立ち居振る舞い			
14)ペアで同じ種類の笛を使用しているか			
14)笛を口にくわえたまま、プレーを観察していないか			
役割分担			
15)ゴールエリアライン際の判定は、ゴールレフェリーが判定しているか			
16)ピボットプレーヤーと防御プレーヤーの攻防を、ペアで連携し観察できているか			
15)、16)について、通信機器を有効に活用できているか			
競技規則の正しい理解			
17)警告や退場を判定する際、その理由をボディランゲージを用いて大きく示しているか			
18)差し違えた場合、必ず①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか			
◆試合終了後			
19)両チーム役員やオフィシャルと挨拶			
19)公式記録用紙に正しく記入されているか確認後、サイン			
20)大会審判長や他のレフェリーへ助言を求める			
20)審判手帳に担当試合を記載し、審判長に捺印をお願いする			

